

第16回仙台中小企業活性化会議要旨

I 会議概要

1. 開催日時

平成31年3月14日（木）15：00～17：00

2. 開催場所

仙台市役所本庁舎2階 第三委員会室

II 議事

1. 開会

○（事務局）経済企画課長

開会に先立ちまして、会議の成立についてご報告をさせていただきます。

本日、金入委員がご欠席、早川委員は若干遅れるというご連絡をいただいております。委員10名のうち今時点で8名ご出席いただいておりますので、規定による定足数を満たしており、本会議が成立しておりますことをご報告させていただきます。

○柳井会長

まず、本会議は公開となっております。議事録作成のため、議事内容を録音しておりますことをご了承お願いいたします。

なお、この公表する議事録の確認につきましては、議事録署名委員にお願いしたいと思っております。今回は委員の五十音順で加藤委員にひとつよろしくお願ひしたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

次に、本日の会議の進め方でございます。平成29年度からこのメンバーで会議を進めてまいりましたが、今回が最後の会議ということになりますので、事務局よりこの2年間の会議の実施状況についてご説明いただきます。また、質疑応答を挟みまして、次に、事務局より仙台市経済成長戦略2023についてと、あと次年度の経済産業施策についてご説明をいただきます。事務局からの説明が終わりましたら、皆さんと一緒に意見交換を行いたいと思います。そして、最後に、皆様より2年間会議に参加された感想または次年度以降の会議に向けたご意見など、一言ずつコメントを頂戴したいと思っておりますので、最後までよろしくお願ひいたします。

2. 事務局からの説明

○柳井会長

それでは、お手元の資料 1 をごらんになってください。これに基づきまして事務局のほうから説明をお願いしたいと思います。

○杉田経済企画課長

(資料 1 に基づき説明)

○柳井会長

委員の皆様、もう既にこの件についてはいろいろと議論されていたと思うんですけども、改めましてご意見ありましたら挙手にて発言をしていただきたいと思います。

(意見なし)

後ほどまた皆様のご意見をお聞きする場面がありますので、ここは、進めさせていただきます。

それでは、事務局のほうから資料 2 と 3 についてご説明をよろしく願います。

○(事務局) 経済企画課長

(資料 2 ～ 3 に基づき説明)

3. 意見交換

○柳井会長

それでは、お一人ずつご意見を頂戴したいと思いますので、森さんから反時計回りで阿部さんまでお願いします。

○森和美委員

わからないところがあったので教えていただきたいのですが、資料 3 の 31 年度の多分予算案的な部分だと思うんですけども、この「仙台未来創造企業」創出プログラム、こちらに関して約 1,200 万円ぐらいの予算がついているんですが、これはいわゆるコーディネートをする方の人件費として計上しているようなものなのか、その辺を教えていただきたいんですけども。

○(事務局) 経済企画課長

主には、外部に委託して、そこから上場の知見を有する専門家ですとか士業の方を、選定した企業に合った人を派遣してもらうのに要する経費がほとんどを占めるという形です。

○森和美委員

それは、ほかの事業に関しても同じような形で外部に委託する費用というのがここに書いてある金額ですか。

○（事務局）経済企画課長

物によるんですけれども、プロジェクト1で言うと外部に委託するものがほとんどです。

○森和美委員

委託と言うと、コンサルに丸投げするというふうに捉えてしまいがちなんですけれども、そういうイメージですか。

○（事務局）経済企画課長

例えば、この「仙台未来創造企業」創出プログラムについて、お金の部分は確かに民間に委託するんですけれども、それだけではなく、例えば市政だよりなどのツールを使って、仙台市が認定企業の情報発信をしたりする部分は職員が汗をかいてやる部分になっていまして、事業としてはそういったトータルで実施する予定ですが、予算としては外部に委託する経費が計上されているというところです。

○森和美委員

このプログラムに関しては非常におもしろいなというふうに思いまして、質問させていただきました。

あともう一つ、うちの会社は医療機器の製販業という許可を取らないといけなかったのが製販業を取得したんですけれども、その際をお願いしていたコーディネーターの方に「御社の中では製販業を取れるわけがないですよ、そんな小さな会社では」と意欲を失うようなことを言われたんです。委託する場合、意欲がある会社を潰すようなコーディネーターは選ばないでほしいな、というところがあります。

○（事務局）経済企画課長

人を派遣する上でマッチングというのは大事だと思っていまして、例えばプロジェクト1にある「外部人材による新事業創出事業」というのも、外部のプロ人を企業に派遣する事業なんですけれども、市で一方的に人を決めて派遣するというのではなく、候補者を何人か出して、経営者の方と面談をしていただきながら、その企業に合った方を企業側に選んでいただくというプロセスをとっていますので、その辺りは注意してやっていきたいと思えます。

○門馬祥子委員

私もどんなふうに行われているのか教えていただきたいところがあって、「四方よし」企業大賞ってすごくいい賞だなと思っていて、1回目に知り合いの会社さんが受賞されていらっしゃるというのもあったんですけども、今年が3年目ということですが、1回目以降がどうなっているのかが意外と見えていないというふうに思っています。この「四方よし」をもうちょっと盛り上げてもいいのかなと思うのと、認定されたメリットが賞金だけではなくて企業PRの素材を提供するとか、そういうお話だったと思うんですけども、そのあたりの持っていき方も、せっかくなのでこの地域リーディング企業のデザイン活用による中小企業競争力強化事業などを使って、実際にどんなふうに行われて、どうすればさらにPRできるのかということもプロの目線を使って考えられるようにするとか、持っていき方はいろいろあるのかなというふうに思ったので、ご検討いただければと思います。

○（事務局）経済企画課長

「四方よし」企業大賞の件で言うと、今年度も3社表彰させていただきまして、申し込み自体は13社で、もうちょっと増やせばいいなとか、あと認知度も高めていきたいと思っています。

去年から始めた取り組みとして、1回目の表彰式はまさにこの会場のような市役所の会議室で行ったんですけども、昨年度から、学生が集まる場で表彰を行い学生にも表彰された企業の取り組みを知っていただくということをやっています、お今年も3月3日に東北学院大学で開催したところです。

もう1点、企業の皆様にももっとこの制度を知っていただきたいということで、昨日、国際センター駅2階の青葉の風テラスで、今までの受賞企業に一堂にお集まりいただき、各社の取り組みなどを他の企業に知っていただくイベントを開催しました。そういうものを重ねていったり、来年度は例えば公募を開始する時期にそういったイベントを行うなど、さらなる募集の認知度向上につなげていきたいと考えています。

あと、やはりメリット感をもう少し出したいということで、昨年度大賞を受賞されました株式会社サイコー様のところへ市長に足を運んでいただき、その様子を市政だよりに掲載するというも行いました。とにかくメリット感を感じていただけるようなことを今後もやっていきたいと考えています。

○門馬祥子委員

選定の基準というのは、起業して何年とか、資本金が幾らとかは特にはないんですよね。規模感も特に関係なく、チャンスはどの会社さんにもあるという。

○（事務局）経済企画課長

市内の中小企業ということです。

○門馬祥子委員

わかりました。私も事業団にでチラシは見かけるんですけども、意外とそれを持っていつている人もいっしやらない。せっかくいい取り組みなのになと思って、ちょっと残念に思っていたところでした。

○（事務局）経済企画課長

これに限らず、いろいろな施策をやっているんですけども、企業の皆さんからよくわからないと言われることも多いので、どうやったらもっと伝えられるかなとかというのは試行錯誤しながらやっていきたいと思っています。

○山本和茂委員

私は、まずおわびから申し上げますが、3月6日に開催された先輩経営者によるセミナーですが、以前の会議の場で「現役のトップ、経営者が自分の経営について話をして、それが記録に残るといのはなかなか難しいだろう」という発言をしていたんですけども、会長お二人を起用されて開催したといのはなるほど大したものだなと思っていました。

お話しされたお二人については私も名刺交換程度しか存じ上げないんですけども、2社とも非常に立派な企業ですし、大変ご苦労もされておられるということで、スケジュールの関係で実際に聞くことはできなかつたんですけども、内容を事業団の職員から教えていただきました。やっぱり業歴が7年から10年ぐらいの会社といのは一つの転換点を迎えるところがありますが、そのあたりは特に経営者の方が聞くと大変勉強になる内容だなと思って感心をした次第でございますし、また、お二人とも地元経済、地元企業がぜひ強くなってほしいという、そういう熱意で発言をしていただいたんだと思って、非常に敬意を表する次第でございます。

地元企業の経営者の方と話をすると、やっぱり地元企業が強くならなきゃいけないという思いは大変強いんだなというふうに感じております。そういった意味で、今回お話をされた会長お二人に改めて敬意を表するとともに、なかなかこういう場

というのは今までなかったのかもしれない。これを続けていくことによって、非常に有意義な企画になるんじゃないかなと思っています。

○守井嘉朗委員

僕はこの2年間参加させていただいたことによって、すごく仙台市の情報がわかるようになって、仙台市がすごく好きになったなというのが、実はこの2年間の自分の率直な思いなんです。なので、関わっていない経営者は仙台市のことを実は何とも思っていないことは事実で、関われば関わるほど好きになるんだなと。これは人と同じで、すごくそう思いました。なので、関わる機会、例えば市長と関わる機会や市と関わる機会が多ければ多いほど、市でやっていることに参加したいなと思うというのが、自分の経験上すごくそんな気がします。会議に呼んでいただくまでは市に来ることもありませんでしたし、仙台市って何かあれだよななんて思っていたんですけども、何か急にすごく好きになりまして、何とかしないと、というふうに思ったのは、多分会議に呼んでいただいたからかなと思います。

自分がやっている勉強会がありまして、前は「九州に負けるな」という会をやりました。そのときに、九州、博多と仙台の違うところは、博多には俺が博多をよくしたと思っている経営者がいっぱいいて、仙台市は行政がそこに関わって何となく市がやってあげている感があるという取り組んでいく姿勢の違いについて、そういう分析をその日したんですけども、やはり自分の経験からも、参加させてもらったりこうやって呼んでいただく機会が多ければ多いほど、や行政のことを好きになって、わかってくるんだなと。やっていることがわからないのは、なかなか触れる機会がないからなので、触れる機会が増えるといいんだなというふうに思います。

来年度の事業については、自分がこれまで発言してきたとおりだなと思っておりまので、何か変わってきたな、すごくちゃんとやられているなというふうな感じがしています。

○栗原さやか委員

まず、1つ目として、資料2の9ページの「地域リーディング企業」を生み出す徹底的集中支援の推進、これが出てきたことに私はちょっと感慨深くなっていたんですけども、私のイメージとして行政はやはり平等、公平、だからこそインパクトに欠けるところもあるというイメージだったんですが、仙台市さんの中で、ここで広く公正にといった従来の行政的姿勢にとらわれることなく、徹底的に集中支援

するという方針を打ち出されたというところが、たしか最初の会議で守井さんがおっしゃっていたところだと思うんですけども、最初それを聞いたときは「ちょっと難しいんじゃないかな」と正直思っていたんですけども、そこを決めて、方針としてやっていこうという市の姿勢にすごく強い意志と、これから仙台市をよりよくしていこうという覚悟というか、そういったものを感じて、ちょっと感慨深くなっていました。

あと、皆様もおっしゃっていたんですけども、この会議に参加させていただいて、私も仙台市がこれだけたくさんの支援策を打ち出しているんだということを恥ずかしながら初めて知ったところがあります。興味がある分野については情報を収集したり、知っていたところはあったんですけども、これだけいろいろなところ、多方面にわたってやっているということを知らなかったところもあるので、もったいないというか、いろんな方に知ってほしい。知っていただくとして、その周知の仕方というのは、どこをターゲットにするかによって打ち出し方が変わるとお思いますので、それぞれの施策によって届けたい層に合った打ち出し方をして、どうにかして届くような周知ができるといいなと考えていたところです。

あと、X-T E C Hイノベーションのところについては、やはりX-T E C Hは最近重視されているところで、とてもおもしろい分野だと思うんですけども、私たちの自戒を込めて言うと、サポートする側も、新しい分野なのでそれなりの土壌がないとサポートができないと。なので、サポーターについてもきちんと選ばないと、逆にいい芽を潰してしまうというところがあるので、そういったところは注意していきたいなと思っています。

○加藤博委員

私は商工会議所に入ったのがこの委員会に入ったときと同じような時期でして、私は新潟の出身で、仙台とはどちらかというところと地縁も血縁も全然ないという人間だったんです。ただ、商工会議所にお世話になって、商工会議所が仙台市と一緒にあって仙台市をいかに盛り上げるか非常に多彩な手を考えておられるというのは、携わってみたいとわからないところでした。

ただ、見ていますと、時代が随分変わってきているのではないかというふうに思っていて、今までの右肩上がりの行け行けどんどの世界から、これからの少子高齢化の中で、仙台も自然減の世界に入ったというお話でしたけれども、そん

な中で行政としての公正さとか平等にやらなきゃだめだということが本当に通用するんだろうかと。これからはそうじゃなくて、選択と集中の世界に入ってくないと、この厳しい直面している課題を乗り越えられないのではないかというふうに思っています。そういう意味で、仙台市さんや商工会議所一緒になって走っているわけですが、いろいろな施策をやりつつ、いろいろな施策を打つたびにその効果がなかなか見えない。それはなぜか考えてみたときに、やっぱり選択と集中がなされないがゆえに、ヒト・モノ・カネを重点的に投資できない。そうすると、ヒト・モノ・カネがいっぱいあったときはいいんですけども、そうじゃない時代がこれから来るとすれば、この辺で意識を変えていかないと次の世界に行けないのではないかと思っています。

せっかく仙台市が政令都市になって、東北で中心になっていろいろやっている実力がありながら、少子高齢化の影響をものすごく大きく受けている。まちがどんどん端的に言えば寂れてきているというような状況の中で、どうするんだというのがまだ答えが出ていない時代なのではないかと思っています。

放射光施設についても、私は商工会議所で工業部会を担当してしまっているいろいろな話をしてはいるんですけども、具体的にどうすればいいかまだよく見えていない。S P r i n g - 8を見て何かわかるんじゃないか、という程度であって、今、起業家精神を持ってここで自分はどういうことをやってみたいんだというイメージが膨らめるような状況には残念ながらなっていないのかなと思っています。商工会議所の工業部会でも7月頃にS P r i n g - 8を見に行こうという話をしてはいます。モノをつくるにしても、そこを利用するにしても、技術的な課題も含めてもっと具体的に詰めないと次のステップが見えてこないという意見が出ていますので、この辺は仙台市さんのご協力も得ながら、最後は人と人とのつながりを頼ってこれを広げていかなきゃだめなのかなというふうに、この委員会の中で皆さんの意見を聞きながら、最近特に強く思っているところがございます。個別的にはいろいろな苦勞があるなと思っていますんですけども、全体的に見ると、何かそういう視点をもう一つ突っ込んでいかないと見えないのかなという気持ちがした次第です。

○阿部章委員

まず、すごい内容ができ上がってすばらしいなというのが感想で、その中で、この会議は中小企業振興基本条例に基づいての会議だと思うので、これは仙台の経済

成長戦略の中でいろんなところにちりばめられているとは思いますが、あえて1つ、例えば域外へ行く企業を増やしましょうというのが本当はどこかに入っているといいのかなというのは感じています。そのために中核人材を支援する事業をやりましょうとか、手段が入っているのかとは思いますが、見た人のメッセージとして、仙台市としては域外にどんどん出て行って事業を拡大してほしいというところの意図があると思うので、その名前がそういう形で入っているとよりアピールになるのかなというのが1つ感じたところでした。

2つ目が、個人的には奨学金の返還支援事業が、素晴らしい取り組みだなと思いました。うちでも去年から奨学金の援助みたいな形で給与に上乘せをやっているで、現状市内の大学生の7割が奨学金を使っていて、結果として地元企業に就職したくても給与の面で奨学金の返済と生活費が賄えないという現状があるので、この事業が入ることでより地元中小企業を知ってもらえることにつながるんだろうなと思っています。

最後に、目標値の5割の黒字企業というところで、例えば1%の黒字企業がいっぱいいるのと、10%、15%の企業がいるのでは、税収面も含めて変わってくるんだろうというのは容易に想像がつくんですけども、その辺の議論の経緯とか、実際集中支援をしてその会社がどれぐらい伸びたかというのの数値目標もあるといいのかなという思いもちょっとして、経緯とか、たくさん議論されたんだと思うので、お聞きできればと思います。

○柳井会長

最初の頃は森さんと守井さんが全く逆の発言をしていて、補助金があるといいという意見と要らないという意見と、あとやっている企業は勝手にやっているんだよという話をしていたと思うんですが、守井さんいかがでしょうか、そのあたりも含めまして、もう少し議論を頂戴したいと思うんですが。

○守井嘉朗委員

集中支援のところについては、本当に自分が思っていたことなのでこういうのが出てきてよかったなというふうに思っていますが、黒字企業につながるかもしれないんですが、条件はしっかりあったほうがいいのかというふうに思います。市が集中支援をすることの市側のメリットというのは税と雇用というのが当たり前なので、税を納めるのは当たり前だし、逆に言うと、大きくなって本店を仙台市外に移

転するなんていうことは絶対ないような条件をつけなきゃいけないだろうし、雇用は何%以上伸ばすことだろうし、そのかわりに企業側でももっとこうするということを言える機会があったほうがいいと思うのと、自分は選ばれるつもりでいるので、選ばれたときに、それは正直プレッシャーだろうなと思いますが、だからこそないとだめだなと思ったんです。

これが普通に何となく支援してもらっただけだと、支援内容も薄いし、別に調査されるわけでもないし、発表されるわけでもないしいいかな、と。阿部さんが言うとおりに、発表されて結果を出されたりすると、ああちゃんとやらなきゃいけないかなというのはあるなと思います。支援していただいた分、しっかり結果を出す。それは雇用と税の問題というところで、しっかりそこを決めたほうがはっきりするのかなと思います。

○柳井会長

あと、森さんどうですか。最初の頃、よく補助金の話をされていましたよね。やっぱり変わりましたか。

○森和美委員

最初のスタートアップ時点というところだけ見ると、やはりいろんな支援メニューがあってほしいなというのが自分が20代のときに感じたことなんですけれども、だんだんとそれこそ大人になっていくと、あまり甘やかされてもいけないんだなというのを感じつつ、この会の中で修羅場体験という話もあったと思うんですけれども、やっぱりそういう修羅場は体験しないとわからないし、乗り越えてこそ次に見える世界があるなというのを感じるところなので、守井社長が昔おっしゃっていたのは痛感するところではあります。

○柳井会長

あと、山本さん、総論的なコメントで結構なんですけれども、この仙台市の2023に対する評価とか、ここもうちょっと何かあるといいよねという少しアドバイスお願いできますでしょうか。

○山本和茂委員

私なりにこの活性化会議については思いがあって、かつ、この会議と並行して成長戦略2023の策定があったわけなんですけれども、この辺について私の思いというか見方についてちょっと話させていただきます。

まず、この会議で皆さんからいろんなご意見を聞かせていただいて大変私も勉強になりましたし、その流れの中で、先ほど申しましたように地元の経営者の方と意見交換をしたりして、随分勉強になりました。ありがとうございます。それで、私がこの会議に出席をさせていただいて、成長戦略2023の策定に少しでも関わられたかもしれないということでは大変うれしく感じています。

ちょっと古い話をさせていただくと、1997年に銀行の破綻であるとかバブルの崩壊後のいろんな問題が起きたんですけれども、その後、1999年の12月、まさに21世紀を目の前にして、中小企業基本法の改正がございました。私は当時そういった類いの仕事に就いていましたので、大変意味のあることだなと思って期待をしていたんです。そのときの基本法の改正の趣旨は、中小企業を画一的に弱者とのイメージで捉えることはもはや困難だということ、そういう捉え方をしていた前の基本法から、保護、救済だけではなくて、多様で活力のある中小企業の育成・発展へという形に改正されました。

ところが、バブル崩壊が終わって21世紀に向けて頑張ろうと思ったら、2001年に中国がWTOに加盟して、東北地方一帯への影響が大きかったんですけれども、工場がどんどん中国に移転したり、2002年には完全失業率が5.5%という雇用の谷を経ています。その次が2008年のリーマンショックで、その後に2010年ぐらいから2012年ぐらいまでで79円台の円高ショックが起きたわけです。この2010年から2012年の円高の原因というのは、2006年のゼロ金利解除、金融緩和の取りやめの影響だと思っていますけれども、そんなことで1999年の改正以降、何とも中小企業にとっては大変な難局が続いてきたわけでございます。その間、中小企業の経営健全化とか、地域中小企業数の減少に対処すること、いわゆるセーフティネットを優先せざるを得なかったという事情がございます。

そういった中で、国でも中小企業強化、成長政策の見直しの検討に2013年頃から本格的に着手したというふうに聞いております。その結果、中小企業基本法改正から17年を経て、2016年の7月に改正中小企業等経営強化法が施行されました。その中で、中小企業の経営強化のために、ベンチャー支援、経営革新支援、企業間新連携支援、人材支援、ものづくり、知的財産支援であるとか、そういったものが挙げられて、前の実施法よりもかなり具体的な中身になりました。

ところが、残念ながら、この改正中小企業等経営強化法の検討実施過程では、仙

台、東北は東日本大震災の発生、復旧・復興の真っ最中だったわけでございます。まさに2011年の震災というのは円高不況の真ただ中で起きたわけで、そういった中で人命の安全とか復旧・復興、そして大変な試練に直面した地域中小企業の救済に集中をせざるを得ない状態だったんじゃないかなというふうに思います。

この巨大災害を乗り越えて、今まさに仙台市経済成長戦略2023をまとめ上げたということにつきまして、郡市長のリーダーシップと経済局、遠藤局長初め経済局の皆さんのご努力に心から敬意を表する次第でございます。

商工会議所さんと同様に、事業団もこの戦略の実効ある実施にぜひ関わっていきたいということで、組織体制や職員の育成、そういうことも含めて来年度展開していきたいと思っておる次第でございます。

○遠藤経済局長

計画の策定側の人間として、これは全体の意見ではなくて個人的な意見になるんですけども、今、加藤委員から選択と集中という話が出ました。よくこの言葉は聞くんですけども、行政側の人間にとって選択と集中というのは、選択することとはどこかを切り捨てなきゃならないということなので、それはないと思っっているんです。ですから、私にとっては網羅と集中なんですね。このプロジェクトをつくる時も、全体を網羅したうえで、どこを強調するかという、そこが大きな視点なんです。

前の経済成長デザインのときに、全体を網羅していなかった結果、いろんな業界の方から声もいただきまして、それが今回、単語が一つ入っているだけでもこの業界のことも考えてくれているんだという、そういう話をいただいています。選択じゃなくて網羅と集中と、そういう意味で、こういう柱立てを私自身は考えました。

それから、目標の数値を1つにするというときに、網羅に立つのか、集中に立つのかというのが頭の中にあるんですけども、最終的には網羅のほうに行かざるを得ないだろうと。要するに、全体をあらわす数字というときに、この黒字企業というのが案として出たので、私は網羅の側に立っていたものですから、この数字で行こうということで市長にお諮りしました。

これに関しては、やはりメリハリの部分と総花的な部分と両方が入っているので、どこに目をつけるかで、見方や評価が全然変わってくる、それはある程度やむを得ないのかなと思っています。

もう一つ、東日本大震災の後、私は市民局に異動して町内会や地域防災計画に関わったんですけれども、あの中ではっきりしたのが、市役所は全部はできないと。ですから、それぞれの役割分担に基づいてやらないといけない、というのが完全に身に染みて、経済の部分も同じだと思っています。どう場をつくって、そこに企業さんに集まってもらって役割分担をしていくかが大事だと。そういうのが根底にあって、予算要求にもつながっています。私個人的には、役所だけで全部はできない、ただ、役所は切り捨てることもできないんだという、この2つの中でこういう案をつくらせていただいたというのが私個人の心の中の流れでございます。

○加藤博委員

少し言葉が足りなかったかもしれない。集中と選択というのはよく使われる言葉ではあるんですけれども、確におっしゃるように、じゃあ切り捨てるのかという話になると、これは端的に言ってそう簡単にできる話ではない。これはよくわかっています。ただ、やり方があるんじゃないかと思うんですよね。

確かに、どこかで選択と集中だと言ってここだけだと決めてしまう、そういうやり方で、いわば上意下達のような形でやってしまうと、何で見ていないんだとか何で見てくれないんだというような話にどうしても行くと思います。でも、これは今までの日本の姿だったのではないかなと思うんですよ。だから、どういうやり方がいいのか、なかなかわかりませんが、例えばコンクールをやるとか、あるいはテーマを決めて、それも支援を受けたい会社が提案して、それをコンペみたいな形で決めていくということも一つの公平な世界のやり方なのかもしれません。

非常にやり方が難しい世界に入ってきている中で、今遠藤局長がおっしゃったように、いろんな知恵を出していかないとだめな世界に入ってきているのは間違いがないと思っている次第ですので、これを民間と行政とコミュニケーションをよくしてやっていかないと、なかなか知恵が出てこないのかなということも気をつけていかなきゃいけないというふうに思った次第です。

○守井嘉朗委員

よくよくお考えいただきたいんですけれども、僕、黒字企業をこのくらい出さなきゃいけないという目標を持たれて黒字になるわけではないんですね。網羅という話ですけれども、僕、市に見ていてもらいたいなんて思ったことないんです、1回も。切り捨てられるかどうかは、多分それはもう市場原理なので、僕らはその中で

生きているので、僕は網羅してほしいと思ったことがないんです。

ただ、突き抜けて、その分絶対市に返すから集中して応援してほしいという意味では、僕は多分集中してほしいであって、それは、その集中して自分が成功する分、必ず恩返しをその地方、自分が生まれたところに必ず雇用と税で返すと思っているんですけれども、黒字企業をこのぐらいにするという策に乗って黒字になるなんていうことは絶対ないし、行政がやれることの限度って絶対あると思うので、黒字に関与するってできないと思うんですね。

例えば、減価償却を仙台市だけ長くとってくれるとか、補助金出て設備費軽減されるなんていうことがあれば別ですけれども、そんなことはないとする、黒字企業は黒字になりたくてなるので、なりたいと思う環境づくりのほうが大事なんじゃないかなと思っていて、そこはどうしても企業と行政が絶対相容れない、利害が全く違うところから来るところなので、しょうがないとは思いますが、自分はそのようなふうに考えています。

○郡市長

局長が申し上げたのは、行政の立場としての基本的なところだというふうにご理解いただきたいと思うんです。今、守井社長からも、やはりそんなことではなくて、ある意味もうちょっと行政の立場を超えていろいろ考えるべきではないか、もしかするとそういうご意見だったかもしれません。

どの子にも平等な教育をしたい、させなければならないのならば、全ての子供に不平等な教育をせよという、逆説的な感じですが、今、アメリカやヨーロッパではこういうことがずっと近年言われ続けているんです。これは、それぞれの子供たちの成長をしっかりと見ていって、その子に合った教育を施すこと、つまり画一的な教育ではもうこの時代成長はしていかないんだということを言っているんだというふうに理解をします。

これは、多分子供の教育の問題だけでなく、まさに経済の場面でも同じことであって、そのことを十分に意識しながら、今般、今回の2023の戦略を打ち立てさせていただいたということで、その辺のところのご理解はいただけるのではないかなというふうにぜひご理解くださいますようお願い申し上げます。

○山本和茂委員

先ほど申し上げたように、いろんな中小企業の新しい政策というか、強化法案の

ときに、やはり震災のさなかにあつて、他の地域よりも震災復興のほうに力を振り向けざるを得なかったという状態があります。それだけに、ここで成長戦略が始まるというのは大変歴史的な意義があると同時に、ほかの地域、ほかの政令市以上の、成果を出さなきゃいけないなというふうに思っています。

例えば、いわゆる資金調達の円滑化なんていう話につきましては、いろんなところで制度融資であるとか金利の補助であるとかやっています。一方で、創業してから経理を奥さんがやっていたり、勘定科目の仕訳も曖昧だったりして、それで決算書つくっているような会社、イメージで言うと年商3,000~4,000万の会社だとそういう状態なんですね。そういう会社が成長して、いざ大きな会社の協力業者として仕事をもらうというようなときには、決算書を出せと言われて、出すと「何ですかこの決算書は」という話になっちゃって、そこでつまずいちゃうんですね。

金融取引においても、割と小さい金額の資金の借り入れは、銀行は統計的な目で見ます。金利1%2%上乗せしておけば倒産確率がどうだという目で見られるんですけども、やっぱり億単位の融資、資金が必要になってくると、その会社の財務内容をきちんと試算表から何から全部調べるようになると、そこでつまずいちゃうんですよ。

ですから、未来創造企業になる候補の企業に対して手厚くやれる方法もあるし、それを例えば財務諸表についてアドバイスするとか、そういった、あまり地方では聞いたことがないんですね、第三者がやるというのは。そんなこともあり得るんじゃないかなと思いますし、企業間の連携についても新しい取り組みをもっと力を入れて事業団でもやっていきたいなと、こういうふうに思っています。

○阿部章委員

7番の企業誘致のところ、簡単に言うと誘致をするので固定資産税相当とかを助成するみたいなところだと思うんですけども、これの予算が結構多いので、これを集中支援する企業にも対応してくれるとか、そうすると、さっき守井さんがおっしゃったようなところにもちょっと行き着くし、仙台本社の企業として見ると、外から入ってくる企業は税金かからなくて、地元はちゃんと払っているという、ちょっと変な見方ができちゃうかなというの。対象が製造業なんですかね。

○遠藤経済局長

今、対象が広がってしまして、ソフトウェア関連企業ですとか、あとは市内移転

に伴う従業員の拡張なんかも対象になりますので、集中支援して大きくなればこちらでも使えるような、そういうふうなパターンも出てくると思います。例えば、会社が大きくなって行って、オフィスを移転なり拡充して雇用も増やすとなると、業種によっては助成金の対象になる可能性が出てきますね。

○阿部章委員

仙台市に本社のある企業でも対象になる中身になるわけなんですね。

○遠藤経済局長

はい、そうです。一般的には市外からの誘致企業ばかり光が当たりますけれども、市内で大きくなってくる企業に対しても項目がありますので。

○柳井会長

どこかでまたそういう補足していただければ、よりわかりやすくなると思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、今回で任期が終了となりますので、この2年間、会議にご参加いただいた感想、あるいは次の活性化会議それに向けてのご意見とかご希望、あるいは今後の取り組みのご予定など、幅広いご意見を頂戴したいと思っております。

○阿部章委員

2年間いろいろお世話になりましたありがとうございます。いろいろ勉強不足のところがありまして、皆さんに温かいコメントをいただきましてありがとうございます。

よかった点としては、先ほど皆さんもおっしゃっていたところがありましたけれども、より知見が広がることで、市での考え方や行政の考え方、あとは現状の捉え方、企業ですと外部環境、内部環境という捉え方をしていくんですけども、やっぱり行政の中で、市をどういうふうに捉えて現状を認識し、どこにあるべき姿を持って行って、現状とのギャップをどう捉えて対応していくのかというところの考え方を非常に勉強することができて、やっぱり役割の違いが非常にあるんだなということも勉強させていただきました。要は、行政の役割と企業の役割というのは一市民としての役割とも違って、そこの認識が違うとより訳がわからなくなってしまうんだろなということも理解が進んだので、何か、より一緒にいいまちをつくっていくという中で役割分担をしているんだというのが気持ち的に理解できたというのが一番よかった点だと思います。

今後に向けてですけれども、知らないこととかまだまだたくさんあるというのが、非常に実感するところでもあります。この戦略の一つ一つのプロジェクトや施策について、一方的に情報発信をうまくすれば伝わるということではなくて、恐らく遠藤局長や杉田課長の顔を知っているので私には伝わるものがあったと思います。

なので、今後、より経済局の皆様と、あと地元の経営者とかがもっと交流してコミュニケーションを交わす機会が、この会議が終わってもどこかであるとより一緒に役割分担をしてやっていけるような感じもしますし、よりお互いの理解も深まっていくと思うので、そんな機会が継続してあればすごくうれしいなというのが感想でございます。

○加藤博委員

本当に2年間ありがとうございました。こういう経営の幅広い課題についていろいろ触れる機会というのは実はあまりなくて、私はどちらかというと、東北電力の中でも特に電力に限った分野でしか物を見ていないというところがありましたので、今回そういう意味では視野を広げていただいたのかなとありがたく思っております。

その中で思うのは、先ほども申し上げた話もありますが、実は私、日本商工会議所のほうで規制・制度改革専門委員会の委員長を務めていて、日本全国の規制・制度改革ってどうやるんだという議論をする場面がありました。その中で、徳島県の例なんですけれども、県と市が一緒になっていわゆる地方行政の規制改革をできないかということに取り組んだ例がありました。これは非常に難しいそうです。要は行政サイドと議会サイドと、それから経済界と、お互いのつながりがないとやっぱりうまくいかないんですね。お互いに自分の言いたいことだけ言っていると絶対に規制改革というのはできなくて、やっぱり痛みも伴うことになるので、非常に難しいことだと思うんですが、実はこれをやると非常に市が活性化していく、地方が活性化していくということを徳島の方は一生懸命おっしゃっていました。

行政ってすごく難しいですよ、全部予算は議会を通さなきゃだめだし、これは国に限らず単年度会計で何ができるんだと。しかも予算そのものが限られている中で、やっぱり仙台市なら仙台市全体の知恵を集めなきゃいけないという時に、そういう意味では郡市長の指導力をぜひ発揮していただいて道が切り開けると、仙台のまた違った未来が見えてくるのではないかと思っていますので、ぜひよろしくお願いをしたいと思います。

これが中小企業の活性化にもしつながっていくとすれば、仙台市からいろいろな企業が出てくることにつながっていくのではないかと考えていますので、我々商工会議所も一緒になって走っていきたいと考えていますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

○栗原さやか委員

私も参加させていただいて大変勉強になりました。経済局さんの施策等については、正直あまり深く知る機会がなかったというところがありまして、ざっくりとしか知らなかったものもより細かく教えていただくことによって私自身認識も深まりましたし、参加者の皆様からのご意見で勉強になるところがとてもありました。

あと、課題というか、少しやりづらさを感じたところという、やはり中小企業は範囲が広いというところがあって、どの段階の、どれぐらいの規模の、何の業種の方を対象にするのかによって、考え方は大分変わってくると思うんです。そこをあまりフォーカスしすぎても会議として成り立たないですし、逆に広すぎると議論がかみ合わないというところがあったような気がして、そういったところをもう少し整理した形で進めていくというのも一つの方法としてあり得るのかなと感じました。

あと、次年度以降の会議に期待するところといいますと、私もワークショップに参加したんですが、その中で出た意見が恐らくこの平成30年度新規施策の次世代経営者支援とか外部人材による中小企業の新事業創出促進につながっていると思うんですが、この事業を実際にやるという案内が、私は事業団のメールか何かでたまたま目にしたようなところだったりして、明確には知らなかったんです。そのときワークショップでご意見を伺った方から、「どういうふうに施策にするんですか。今後も何か手伝えることがあったら言ってくださいね」とか言われたんですけども、それをフィードバックする機会も特になかったので、そういったところがちょっともったいなかったなという気がしています。

皆さんも言っていますが、やはり経済局との交流の場は多ければ多いほどこういった施策が届きやすくなると思っていて、文字で見ると「いや、こんなすごいのあるんだよ」と言われたほうが伝わりやすいですし、経済局に対するファンというか、そういったものが増えたほうが顔が見える関係で浸透していくので、とても伝わりやすくなると思います。そういった意味でも経済局とのつながりをど

んどん広めていく機会があるといいなというのは私も思っています。以上です。

○守井嘉朗委員

2年間本当に楽しくて、先ほど冒頭でお話をしたとおりに、呼んでいただいてすごくよかったなと思っております。

もちろん助成金欲しい、補助金欲しいという人はいっぱいいますし、ただ、自分はそう思っちゃいけないんだと思ってやっていますので、そんな点で少し発言がずれていたかなと思いますが、市の立場もよく理解をしていますし、いろいろな試みもご一緒させていただいたりしているのもあって、すごく市のことが好きになったのは先ほども申し上げたとおりです。なので、これから出てくる経営者の人たちも市と交流する場があるとすごくいいのかなと思いました。

よく東京でやっている情報交換、それこそコンサル会社が企画してビジネスマッチングする場なんかだと、多くの企業にプレゼンをして、聞いている企業が「うちではこういうやり方で解決できます」というのを売り込む会が主流になっています。同じように、市に中小企業が売り込むような場を公開でやるようなこともいいのではないかなとちょっと思いました。それこそ、市の業務を軽減できるようなアイデアのプレゼンをやらせてもらって、その場で買う、買わないまでいかないと思いますが、そうやって市におもしろいと思ってもらえる事業を提案できればなと思うので、そんなことを公開でやるのはおもしろいのかななんて思ったりしました。

2年間、本当にありがとうございました。

○山本和茂委員

本当に2年間ありがとうございました。私も、この会議の中、あるいは地元の方とのいろんな違う場所での懇談で、いろいろと勉強をさせていただきました。

それで、改めて成長戦略2023について言えば、「豊かさを実感できる仙台・東北を目指して」ということになっています。これはやはりGDPだけではなくて、付加価値に着目したというのは非常に大きなことだと思います。付加価値、つまり売上高がGDPで、売上総利益が付加価値なわけですけれども、雇用という意味ではGDPが多いほうがいいんですけれども、いつの間にか利益の部分が抜けていっているという状態では豊かさを実感できないということになります。そういった意味で、この付加価値に着目されたというのが非常に素晴らしいことだと思います。

また、「仙台・東北を目指して」というところで、例えば企業間連携というのが

ありますけれども、関西では企業の名前を10社ぐらい挙げると、自分でどんどん電話をして会いに行きますが、東北全体としてはそういう風土がないところをどうやって実効性ある企業間連携をやっていくのか。まさに他地域を見て、その例を参考にして、それ以上の成果の上がる、東北に適した施策、具体策を仙台市がやっていくということが大事なのかなと思います。

私も事業団としても、商工会議所さんと連携していろんな事業をやらせていただいておりますし、今後とも関係を密にして、まさに仙台・東北のために頑張っていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

もう1点、新規創業とかいわゆる経営の基本的な部分で困っている方に対するアドバイスみたいところが事業団の仕事というふうに世の中から見られているようなのですが、事業団でも去年の4月から組織内のデータベースをつくりまして、どの企業がどんな仕事をやっているかを全部見れるようにしました。例えば、セメント工場ではコンクリートが固まるときに大変が熱が出る、しかも建屋が大きいのでスポットクーラーとかでは対応できないということで、従業員が暑くて辞めていってしまうという課題がありました。そこで、御用聞きフェローの先生が行ってドライミストの装置をつけたら、それが効果があって、同業者でまた二、三、それを参考にする会社が出てきたとかというのがありました。

このようにいろんなことをやっているんだけど、それを事業団であまり広報していないということがあって、ほかの地域を参考にして、それより優れた施策を具体的に実施して行って、それをちゃんと実業界に対して広報する、お知らせするというようなことをやっていきたいなと思っています。

○門馬祥子委員

2年間、どうもありがとうございました。私は小さな個人事業主なので、こういう場に呼んでいただいて、大変勉強させていただきましてありがとうございました。

2年間の中で、最後にこういう新しい施策を拝見することができて、すごく私もうれしいなというふうに思っておりました。さきほど「四方よし」大賞の話を申し上げたんですけれども、この賞が理念や志のようなものが対象だとしたら、リーディング企業の未来創造企業というのは、本当に実績を出して商品力があるとか、サービス力があってお金を稼げる会社という、何かそのエンジンがあってという感じなのかなと思うと、「四方よし」大賞のほうでまず地力をつけて経営を動かして、

未来創造企業のほうに採択されるように頑張るといような持っていき方もあるのかなとかということのを想像していました。

私自身、毎日、社さんの理念をつくったり、商品とかサービスのコンセプトをつくったり、採用の原稿を書いたりということのをさせていただいています。事業団のほうでは起業支援の相談員として、特に女性の方からの相談が多いので、これだけは申し上げておきたいことがあって、女性は結婚・出産する前にどのくらいキャリアを積めるか、それで出産して1回仕事を辞めるか、会社を辞めるか、辞めた後にどうするかという、その出産と子育ての間に仕事を失う恐怖みたいなものは恐らく女性は共通で持っていて、その出産した後に何らかのお金を稼ぐ手段というのが起業なのかもしれないということで、起業支援に相談に来る方も結構いらっしやると思うんです。

女性活躍推進のことがこの資料のところに載っていたので、それを拝見しながら思ったのは、恐らくどの会社にとっても女性が働けるといのは人材的にとても有意義なことだと思うので、女性がどうキャリアを積んでいって、もちろん子育てしたり出産したりしても自分の個性が活かされる働き方がどうできるかというところを教育する機会といのををつくるのも一つなのかなといふふうに思います。それが学生なのか、それとも就職して1年目の会社なのかわからないですけども、そこで恐らく10年、20年後ぐらいに結婚したり出産したり、それは人の自由ですけども、もしそれを選ぶんだったら、その後のキャリアをどうつくっていくのかといふこともそこから教育しているんですよ、といふのも仙台市としての売りになるのかなと思いました。

といふのも、30代、40代の方がすごく悩まれていて、5万円でも10万円でも稼ぎたいんです、自分で何かしてといふふうにおっしやっている方が結構いらっしやって、特に今はシングルになられる方も多いので、お子さんがいらっしやるから働きに行けないとか、そういうことって結構切実だと思うんです。そのときに、会社に勤めるのか、勤める形も在宅で仕事ができるのかとか、本当に多様な働き方を仙台市として支援しているんですといふ打ち出し方は、とても女性にとって働きやすい環境になるのかなといふふうに思いました。

○森和美委員

9年、30年と2年間この会に出席させていただきまして、まず、ありがとうございます

いました。

30年のときから郡市長が自ら参加されてお話を聞いてくださっているという、その仙台市の姿勢に対してありがたいなというふうに率直に思ったというのと、あとは、市長の話し方がとても癒やし系で非常にこの会議に出て癒やされたなというふうに思っています。

私はこれまで経営者としてがつがつ稼ぐということしか考えていなかったのですが、仙台市としてこういうことを考えているんだなということに触れる機会ができて、非常に勉強になりました。

私は、どちらかという将来の仙台市というところでは、やはり目立つ企業を続々と出してほしいなというところがありまして、例えば上場するというのも一つの目立つ方法だと思うんですけども、あとは何か光るところがあるオンリーワンの企業であっても、例えば全国紙に取り上げられるような会社を増やしていくようなやり方もあるべきだなというふうに思うんですけども、どうしても公平というのは難しいとは思っているので、やはりそこは集中的にやっていただきたいと思っています。

あとは、女性として会社を経営していて、結婚とか出産とか、そういった一つのタイミングで女性は職を失うという状態になりやすいので、そこを何とかしたいというのは私自身も経験者として思うところなんですけれども、じゃあどうしたらいいかという案はまだ出てはこないんですが、自分で会社を経営するとその辺は融通がきくようには確かになるので、そうすると中小企業をたくさんつくるというんじゃなくて、小規模の会社をたくさんつくっていても、それはそれでいいのかなと思うんです。それによって、例えば人生100年時代と言われてはいますが、職を失わず、自分たちのできる範囲で生活費を稼ぐ、それで仙台市にも法人税を払っている、多様な働き方があっていいと思うので、規模で判断せず、やはりぴかりと光る会社というのを育てていくというスローガンは出していただきたいと思います。以上です。

○早川智子委員

2年間ありがとうございました。私自身の役割として、多分2年前は完全に仙台の中で仕事をしているスタイルだったんですけども、この委員に入るちょっと前ぐらいから、ほかの地域のエリアを行き来したり、どちらかという東京側に行っ

て全国を見ていくポジションに変わってきたので、見え方も少しずつ変わってきたんですけれども、昨日も神戸の行政の方と一緒にイベントさせていただいたり、そのほかにも様々な地域の行政の方と連携させていただいているんですけれども、どこの市の方も、やはりどうやって自分の市に人をとどめるのかとか、あとは戻ってくるようにするのかということ、ほぼ同じことをおっしゃるので、体感として単純に人の取り合いをしているな、という感じには思っているんです。

全体的に人口が減っていく中で、もちろん経済成長みたいなことは維持しなければいけない部分もあると思うんですが、同じように、今までどおりの経済規模を保つことはなかなか難しい、そういうことよりも、仙台市としてどれだけ特色を持てるのか、経済規模という意味ではなくて、豊かさというのも書いてありましたけれども、豊かさとか、どれだけその市に住むことが幸せなのか、みたいな、何かそういう指標の中で市をつくっていただけると、より特色のある市になるのかなとほかの市の方と話す中でもすごく思います。

どこの市の方も「ぜひうちの市に来ていただく策と一緒に考えてください」ということをお話しただくんですけれども、そのときに、やはり特色を持ってつくっていただいて、仙台だったら仙台市にフィットする人が集まるような形にすると、それぞれの市で特色を持って行政の運営をしていくことで、多分日本全体の活性化になっていくのかなと思っていて、なので、この2年間の中でいろんな施策とか考えたことはすごく、形になったことはすごくいいと思うんですが、より特色のある形になるといいかなと思っています。

あとは、女性という文脈はありましたけれども、郡さんがやっぱり女性で市長をされているというのは一つの特色でもあるのかなと思っていますし、仙台市って、前も女性が市長をされていて、やっぱり女性にとって優しいとか、働きやすくて幸せだなというふうに思えるような市になっていくと、私自身もうれしいなと思っています。2年間、本当にありがとうございました。

○郡市長

改めまして、2年間本当にお疲れさまでした。委員の皆様方には毎回いいご意見をお出しいただきまして、深く感謝を申し上げます。

私自身も、今、地域経済がどのような課題を持っているのか、そしてまた行政に対して何が望まれているのかということを知る大変有意義な会でした、私自身

はすごく熱い思いでこの場に出させていただいて、いろんなご意見を聞かせていただきました。勉強になったと率直に思うところであります。

改めて申し上げるまでもないわけですが、地場の企業の皆さんたち、それぞれが元気になってもらって、先ほどの守井社長じゃありませんけれども、税金を納めてくださって、たくさん雇用してもらって、また税金を納めていただくということによって、教育の問題も福祉の問題もまちづくりも全てがうまく回っていくわけですし、このことが大変重要だと思っているところです。

そして、この2年間皆様方からいただいたご意見も参考にさせていただきながら、経済成長戦略2023をまとめさせていただいたわけでありまして。いろいろな思いがここに詰まっているわけですが、それぞれ一社一社、強みも、そしてまた弱点も違ってまいりますし、目指すところも違うと思いますけれども、それぞれに画一的な支援ではなくて、たくさんメニューを出させていただきましたが、オーダーメイドでの支援ということに近いものを考えて出させていただいたわけでありまして。それぞれの企業の皆さんたちがもっともっと業績が上がっていくように、そしてまた、仙台のまちを引っ張っていってもらえるようにやっていかなければいけないと思っているところで、この間の委員の皆様方には本当に大きなお仕事をさせていただきましたこと、改めて深く感謝を申し上げます。任期はこれで満了となるわけですが、引き続き、さまざまところでご支援とご協力をいただきますようお願いしたいと思います。

それぞれのお仕事が活性化するようにご期待申し上げて、私からの挨拶にさせていただきます。本当にありがとうございました。

○柳井会長

それでは、本日と2年間の会議の総括ということで、私、4年間させていただきましたので、4年間含めて総括をさせていただきます。

この4年間本当にお世話になりましたし、今日ご出席の委員の方、また事務局の担当の方、そして郡市長さん、本当にどうもありがとうございました。

実は4年前どういう議論から始まったかということ、中小企業活性化条例を受けまして委員会が組成されました。最初のほうの会議で何をやったかということ、LINEをつくった森川社長などから、外の目から見て仙台ってどういうまちの特徴があるのかということで、それで、その中から導き出されてきたキーワードに「コンパ

クトなまち」というのが出てきたんですね。つまり、駅から市役所の間非常に都市域がぎゅっと固まって、そしていろんなサービスなんかも得られると。そして、若い人たちも活躍しているんだという話だったんですね。

その2年間の議論というのは、そういうコンパクトな仙台で活躍するいわゆるアントレプレナー、つまり起業家をどう育成するか、こういう議論をずっとやってまいりました。当然、そのとき議論の対抗軸として今までの中小企業とか、本当はもうちょっと工夫すれば伸びる中小企業をどう応援していくのというところで、いわゆる昔からずっと地元で頑張ってきた方と、若い方、これがせめぎ合うような形で2年間過ぎていったわけです。

そして、委員が代わりまして、今日ご参加の皆様がよく議論されたのは、人材育成を通じてやる気のある中小企業をいかにサポートしていくか、その中からいろんな取り組みをどう捉えていくか。1期のときに話し合っていた起業家が、どういった形でその中で引き上がっていくのかという、そういった議論をさせていただいたように思っております。

恐らくこの経済成長戦略2023には、そういった考え方の基本みたいなものがほぼほぼ組み込まれていったということで、恐らく各委員の方の極めて満足度の高い評価につながっていったんだと思います。

ここからは私なりの考え方なんですが、仙台の持っているポテンシャルということで、1つは、皆さんあんまり気づかれていないですが、これから人口減少社会が来るというのは確かですが、データを見てみると仙台市はゆっくりと人口が減少していくんです。これが仙台の持ち味で、ほかのところはもう急激に人口が減っていくんですね。特に東北ではそれがもうはっきりしています。もう既に福島のほうで百貨店がなくなっていたり、山形のほうでも経営不振だとか、そういった兆候はもう出てきていますよね。ところが、仙台の場合はゆっくり人口が減っていくために、これからもうちょっと時間があるということなんです。だから、この残された時間に何をやるかということです。

外の目から見ると、仙台はもう既にそこはターゲット化、きちんとターゲットとして押さえられていて、例えばショッピングセンターというのはこの数年の間に全国で最も多く進出している業態なんですね。ゆっくり減っていくから、集客をする時間が長いということなんです。そうすると何が起きるかという、そのしわ寄せ

が地元の中小企業、商店ですに寄ってくるわけです。

ここで注意していただきたいのは、仙台市がそういうときに商業全体の統計で議論をすると、商業は活発化したという結論を導き出すんですが、我々がお願いしたいことは、中小企業である商店のデータがどうなのかということを見て、本当に地域にとっていいのか、ということ判断していただきたい。

やっぱり仙台の中心商店街というのは、七夕であつたりいろんな行事の受け皿として、いろんな文化の担い手という役割があります。つまりそれは貨幣換算に決してできないような役割とか、まちの暮らしの支えというのがあるんですよね。だから、そういったところを総合的に判断しながら、そういった中小企業としての商店街をどう守っていくのか、こういう視点を失わないで、つまり統計のトリックに惑わされない運営をぜひともやっていただきたいと思います。これは経済でも同じなんですね。そういったことがいっぱいありますので、またそれは別な機会があればお話しさせていただきます。それが1番目です。

あともう一つは、外から見る目をぜひ持っていただきたいということです。実は今、東京のほうでは東南海地震とか首都圏の大地震というのに備えてバックデータをどこに置くかという議論を真剣にやっているんです。そうしたとき、今一番大きな議論は、東に持っていくか、西に持っていくかという議論なんですね。東に持ってくるときどこに持っていくかって、これは仙台なんです。1時間半で来れるし、要するにインフラさえ開通すればそういったデータも人の供給もできるということで仙台はかなり注目されているんですが、仙台からアクションが見えてこないという話をしているんですね。

実はこのデータのバックアップというのは大きな産業につながっていくんです。仙台でいいますと、今、260社ある卸町の事業所は次の世代に向かって皆さん困っているんですね。例えばそういうバックアップの場所に例えば卸町を入れていく、東北大学の放射光施設に関しても東西線があるので15分ぐらいで行けますよね。そういったところの有効活用とか、そういう都市地域、あるいは空間政策と我々は呼んでいるんですが、そういったことも織り込んで、他のマーケットからこちらのほうに引っ張ってくるような政策、そういったニーズをとっていく政策というのも実はあるんじゃないかなと思います。この点は戦略では内的なものだけの話になっていきますので、少し抜けている視点かなと私は見ていて感じるところです。

いずれにしても、短期的にもう不況の足音が聞こえてきているという世界経済の問題も含めて、仙台でいいますと建設業の売上げが落ちて行くので、次年そして次々年以降どうしていくのかとか、この2023が立ち向かっていく道は厳しい道ではありますけれども、決してめげないで元気よくやっていただければと思っております。それによって、私たち委員のミッションもちゃんと果たされていくのかなと思っております。今日は本当にどうもありがとうございました。

そろそろ時間になりましたので、このあたりで本日の会議は終了とさせていただきます。皆様のご協力により、本日を含めた2年間の会議、大変実り多いものになりました。本当にありがとうございます。